南丹市立
文化博物館だより
⑫号
2016.3.31

平成28年度 春季企画展

学校のあゆみ
～八木地区編～

平成28年4月16日土～5月29日日

平成27年3月、翌月に実施される小学校再編のため、南丹市立小学校10校が閉校となりました。南丹市八木地区では、140年以上にわたって子どもたちが学んできた八木・富本・吉富・新庄・神吉の5小学校が閉校、新たに八木西小学校・八木東小学校が開校しています。

▼新庄小学校（昭和35年）

再編の対象となったこれらの学校が開校した明治初期、日本の近代教育制度のはじまりとされる「学制」が公布（明治5年）されました。学制は、教育に関する政府の基本方針を示したもので、全国に5万3760の小学校を新設することや、子どもは親の責任で就学させなければならないことなどが明示されています。しかしながら、これらは受益者負担によって行うことも併せて示されていました。そのため、これを機に開校した小学校の建築・運営費用などは、地域住民の経済的負担によってまかなわれていました。このような状況のなか、南丹市八木地区の小学校、明遠校（吉富）・精醇校（八木）・敬慎校（富本）・進修校（新庄）・桑田郡第十五区校（神吉）は開校しました。

本展では、日本や京都府、また丹波地域における教育の流れの中で、八木地区の小学校がどのようにして誕生し、地域に根ざしていったのかを、学校沿革誌や学校日誌などから振り返ります。また、学校の設立に奔走した高木文平、地域の教育に偉大な足跡を残した井上堰水や八木龍三郎などの紹介も行います。

この機会に展示会をご覧いただき、各々の母校や小学校時代に思いを馳せていただけると幸いです。

▼神吉小学校社会科見学（昭和41年）

南丹市日吉町郷土資料館・春季企画展

昭和のくらしと道具展

平成28年4月16日土～5月29日日

昭和30年代後半からはじまった高度経済成長は、人々の生活はもとより、社会全体に大きな変革をもたらしました。そうした影響は、私たちが生活の中で使用する様々な道具も例外ではありません。素材ひとつにしても合理化が推し進められ、それまで大半を占めていた木や鉄製のものはプラスチックやステンレス製などへと置き換えられていきました。さらなる発展を遂げた現在では機械化・デジタル化も進み、さらに便利なものとなっています。

この展示会では、現在より少しむかし、おもに昭和時代に活躍していた道具を紹介します。現在のものと比較すると少し不便な道具ですが、そこには先人たちの知恵や工夫がたくさん詰まっています。また、木などの自然素材から生み出された道具から、温もりや優しさなども感じていただけます。ぜひご来館ください。

（南丹市日吉町郷土資料館）

▲チラシ

平成27年度は、次のような展示会を開催しました。

平成27年5月30日から6月21日にかけて開催した春季企画展**「匠たちの技と美―日本伝統工芸近畿展より―」**では、第44回日本伝統工芸近畿展に出品された工芸作品を紹介しました。

日本伝統工芸近畿展は、伝統工芸の技を受け継ぐ作家が多数在籍する日本工芸会近畿支部などが主催する展覧会で、これまで伝統工芸の普及と発展に大きな役割を果たしてきました。本展では、田辺小竹氏の《舟形花籃「出帆」》（日本伝統工芸近畿賞）をはじめとする受賞作品のほか、重要無形文化財保持者の作品など57点を展示しました。

▲春季企画展チラシ

本来、人々の生活とともに受け継がれてきた伝統工芸ですが、現在では目にする機会も減少し、生活とはかけ離れたイメージが強くなっています。そのため、本展では、伝統工芸により一層親しんでいただけるよう、作品とともに作家の経歴やコメントなどを紹介したほか、子ども向けの解説リーフレット『工芸ってなあに?』を発行し、来館者への配布を行いました。

会期中には、陶芸や木竹工、染色など、各分野7名の出品作家による作品解説「リレーギャラリートーク」のほか、リーフレットを共同作成した京都美術工芸大学の学生による、小学生を対象としたギャラリートークも開催し、展示会場は多くの子どもや工芸ファンたちで賑わいました。

夏期特別展では、**「戦争と南丹市～子どもたちへ語り継ぐ戦争展～」**（同年7月18日～8月30日）を開催しました。これまでも文化博物館や南丹市日吉町郷土資料館において取り組んできた「戦争と南丹市」シリーズですが、戦後70年の節目を迎えた今回は、それらを集大成した内容の展示会となりました。これまでに開催してきたシリーズ展と同様、本展も郷土資料館との共同開催とし、文化博物館では戦前から戦中、戦後にかけての生活にスポットをあて、苦難の時代を乗り越えた人々について考えました。戦後70年間に発行された号外を中心に紹介した郷土資料館では、戦後の日本のあゆみを振り返りました。

▲夏季特別展チラシ

一人でも多くの子どもたちに戦争の歴史を伝えることをテーマとした本展示会では、その達成のためにさまざまな工夫をおこないました。なかでも易しい表現や見やすさなどを考慮して作成した「詳しく知りたい！」などの解説パネルは好評を博し、来館者アンケートでも「読みやすくてわかりやすかった」や「各所に大きいパネルで解説があった点が非常に親切で良かった」などの意見をいただくことができました。この点は、今後の展示会などでも活かしていきます。

最後に、同10月17日から12月13日にかけて開催した秋季特別展**「学校のあゆみ～園部地区編～」**では、南丹市の小学校再編で平成27年3月をもって閉校となった市内10小学校の中から、園部地区の5校（園部・園部第二・川辺・摩気・西本梅）の紹介を行いました。これらの学校は、平成11年に園部小学校より分離開校された園部第二小学校をのぞいて、いずれも140年を越える歴史を有しています。

この展示会では、各校で長年にわたって蓄積・保存されてきた教材や日誌、写真などからそれぞれのあゆみを振り返るとともに、校内で保管されていた民俗資料や古文書なども展示し、それらから学校と地域の関わりについても考えました。

なお、文化博物館では、本年4月中旬より昨年3月限りで閉校となった八木地区の小学校に関する展示会を開催いたします。また、美山地区の小学校を対象とした展示会も計画しておりますので、今後の活動にご期待ください。

▲秋季特別展チラシ

なんたん文化財めぐり⑥

八木城跡（やぎじょうあと）（南丹市八木町）

▲ 八木西小学校校庭から見た城山（写真左側の一番高い部分が本丸跡）

南丹市八木町の南西部、亀岡市との境界に城山（標高約330メートル）という名の山があります。ふもとの南丹市立八木西小学校の児童が毎年学校登山で訪れるなど、地域の象徴的な存在ともいえるこの山には、その名が示す通り、中世期には八木城が築かれていました。

八木城は、確認される遺構の範囲が東西約700メートル、南北約900メートルに及び、丹波地域においても有数の規模を誇る山城で、丹波国守護代・内藤氏が拠点としていました。歴代城主としては、内藤国貞や宗勝などの人物が知られますが、なかでも内藤ジョアン（如安）はキリシタン武将として有名で、当時日本に滞在した宣教師などの記録から、その動静を垣間見ることができます。

城郭として機能していた時期を明確にすることは難しいのですが、遅くとも16世紀前半には存在し、明智光秀による天正年間（1573～1592）の丹波攻めで落城したとされています。

なお、城跡を含む城山一帯は、平成7年3月、優れた自然環境などから「京都の自然200選（歴史的自然環境部門）」に選定され、環境の保全が図られています。また、ハイキングコース「城山自然遊歩道」を利用して散策することで残存する石垣の一部や曲輪跡、堀切などの遺構を比較的容易に見学することができます。

本丸（主郭）跡からは亀岡盆地が一望できることもあり、山城ファンはもとより、ハイカーたちも多く訪れる場所となっています。

※曲輪（くるわ）…城を構成する区画のひとつで、屋敷地などのために作り出された平らな場所。

※堀切（ほりきり）…城の防御のため、尾根に掘られた溝。

▲ 内藤ジョアン顕彰碑

▲ 残存石垣

▲ 堀切

▲ 八木城跡位置図

編集後記

今号では、八木城跡を紹介しました。今の季節、城跡を訪れると、本丸跡では地域の人々によって守られてきた桜が花をつけて迎えてくれます。そして、桜とともに亀岡盆地に広がるのどかな風景、笑う山々などを一望することができます。ぜひ一度訪れてみてください。(N)

▲◎八木城跡は山の中にあります。しっかりとした服装・靴でお出かけください。◎駐車場はありませんので、公共交通をご利用ください。

南丹市立文化博物館だより第12号

平成28年3月31日発行

編集・発行　南丹市立文化博物館

南丹市立文化博物館

開館時間　午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
休 館 日　月曜日／祝日／年末年始（12月27日～1月5日）
入 館 料　大人300円、学生200円、小人100円

※20名以上の団体は2割引、南丹市在住・在校の小・中学生は入館無料
※障がい者手帳等をお持ちの方、及びその介護者お一人まで半額

〒622-0004 京都府南丹市園部町小桜町63番地
Tel. 0771-68-0081　Fax. 0771-63-2983
Eメール　bunpaku@city.nantan.kyoto.jp

南丹市立文化博物館　検索

http://www.be.city.nantan.kyoto.jp/hakubutukan/